

株式会社 エヌ・エフ・ジー 平成 27 年 9 月 18 日  
「エマルジョン燃料のエヌ・エフ・ジー」

水と油を均一に微粒子化させ、安定燃焼させるエマルジョン燃料製造装置と、水と油を分離させない溶液であるエマルジョン燃料で特許を取得している。エマルジョン燃料は、大気汚染物質である窒素酸化物を通常の燃料に比較して 30%以上低減することができる。ボイラーメーカーの信頼度を上げることが課題であるが、川崎重工が大型船舶にて 1 年間エマルジョン燃料を用いたところ、エンジントラブルもなくエンジンの力も変わらない実証実験に成功した。水産大学と共同で漁船などの船舶を対象にエマルジョン燃料を利用した省エネ装置の開発をこれからも行っていきたい、と語っている。



笹氣出版印刷株式会社 平成 27 年 11 月 9 日  
「エコな笹氣」の継続

印刷業として、紙の製造工程を見直すだけでなく、その原料にまでさかのぼって環境に配慮した取り組みをしている。ISO を取得している会社としては、紙の原料となる木材に違法伐採されているものが混入しているという現実もあり、それを黙認することはできないからである。グリーンプリンティング認定制度を取得する他、使用頻度の高い部屋の蛍光灯を LED にするなど環境への取組は尽きない。また、印刷物とデジタルは、時代の変化に応じてお客様のニーズに答えることが大切と強調している。



### 環境物品等の調達に関する基本方針の変更について

平成 28 年度は、21 分野 270 品目の判断の基準等の見直しとなる。

<主な変更点>

- ボールペン → 芯の交換が可能であることを判断の基準に追加
- オフィス家具 → 植物由来プラスチックに係る判断の基準の変更
- カートリッジ等 → 化学安全性に係る基準の変更
- 電気冷蔵庫等・テレビジョン受信機・電気便座 → エネルギー消費効率に係る経過措置の延長等
- ガスヒートポンプ式冷暖房機 → 期間成績係数に係る判断の基準等の見直し
- エアコンディショナー → エアコンの冷媒に係るGWP基準の設定
- 自動車 → 植物由来のプラスチック又は合成繊維の使用
- 繊維製品に係る判断の基準等の見直し
- 公共工事 → LED道路照明に係る判断の基準・断熱サッシ・ドア・ガスエンジンヒートポンプ式空気調和機・合板型枠
- 飲料自動販売機設置 → ノンフロン化の促進
- 引越輸送 → 再生材料又は植物由来プラスチックの使用

### 平成 28 年度事業所見学会開催予告

日程:平成 28 年 7 月 12 日(火) 定員:45 名  
場所:みやぎ生協リサイクルセンター、トヨタ自動車東日本株式会社

※詳細が決定次第、ご案内申し上げますので、会員の皆様のご参加をお待ちしています。

会員数 147(企業 112 団体 16 行政 19)・・・A会員(全国会員)113、B会員(みやぎ GPN) 34

### ■発行・編集 みやぎグリーン購入ネットワーク事務局

〒981-3121 仙台市泉区上谷刈三丁目 10-6

TEL:022-218-5451 FAX:022-375-7797

E-mail [m-green@miyagigpn.net](mailto:m-green@miyagigpn.net) URL <http://www.miyagigpn.net>



# みやぎ GPN ニュース vol.11



## ■トップ対談

平尾雅彦グリーン購入ネットワーク会長×猪股宏みやぎグリーン購入ネットワーク代表幹事

平成 28 年 1 月 29 日(金)

GPN 設立 20 周年記念フォーラムにおいて(東京ウィメンズプラザホール)

猪股: グリーン購入ネットワーク設立20周年おめでとうございます。

平尾: ありがとうございます。これまでご参加いただいた会員の皆さん、地域ネットワークの皆さん、様々な支援を賜った全ての関係者の皆さんに心より感謝を申し上げます。

猪股: みやぎGPNは、2004年3月に設立しましたので丸11年が経ちました。



猪股代表幹事

平尾: 地域ネットワークとの連携強化により、地域で先進的なグリーン購入の取り組みを創出し、全国に普及するという目的のためには、この11年間のみやぎGPNさんのご活躍はとても心強いものでした。

猪股: ありがとうございます。過去において、GPNの全国フォーラムを2007年の第9回と2012年の第14回を仙台で開催していただきまして、大変盛り上がりました。

平尾: はい、地域ネットワークから全国へと広がることは、グリーン購入運動にとって理想ですね。そしてまた、昨年は国連によって、「持続可能な消費と生産」が持続可能な開発のための重要な目標に設定されましたから、グリーン購入運動にとって追い風になりました。

猪股: グリーン購入の推進がますます求められ、環境と経済が両立する持続可能な社会を早く実現しなければならない、ということですね。一般市民、企業、行政が連携を強化し、継続して取り組んでいくことが大事ですね。先日のみやぎGPNの幹事会では、事務局の安定した基盤づくりと活動のために、収入増を強化しなければならない。そのためには、行政の力を借りながら会員を増やすことを目標に掲げました。また、罰則規定がない緩やかなグリーン購入法という法律の性格から法令遵守は努力目標として扱われていますが、自治体・事業者・国民の責務という文言も使われておりますので、グリーン購入促進の仕組みをしっかりと作るよう国に働きかける必要があると思います。

平尾: その通りですね。そのためには20年の実践で培ったネットワーク全体で共有する知見と経験、そして人や組織のつながりを活かし、購入者主導のグリーンイノベーションを起こしていきたいと考えています。さらに、会員のメリットとなる活動を、全国と地域で共に考えていかなければなりませんね。持続可能な消費と生産のために私達プレーヤーがどう繋がって、どう社会に貢献していくか。これからの10年、100年先まで見通した活動をしていきましょう。そのために、みやぎGPNさんのこれからの活動に大いに期待しています。

猪股: はい、共に推し進めていきましょう。今日はお忙しいところありがとうございました。



平尾 GPN 会長



## グリーン購入事業所見学会・大崎市

平成 27 年 7 月 2 日(木) 主催: みやぎグリーン購入ネットワーク 共催: 宮城県 34 名参加

### ■有限会社千田清掃 (大崎市古川)

地域に密着したバイオディーゼル燃料「以下BDF」製造を通じて、BDFの原料調達拡大、高品質BDFの製造、BDFの利用拡大・普及に取り組み、地域の企業や行政と協働して、環境に配慮した地域経済の活性化を進めている。全国でも珍しいB5(ビーファイブ)燃料製造に成功しており、公共のバスで使用されており、冬期間エンジンがかかりづらいという現象もなく、問題なく運行されているとのこと。また、自社分析や第三者機関に分析を依頼し品質保持に努めている。そして、社員が試行錯誤しながら自動運転ではなく完全に手動運転で、製造工法も改善を重ね品質の良いバイオディーゼル燃料を作っているとのこと。菜の花プロジェクトで収穫した菜種から、油を搾取するところも見せていただいた。また、地域がドーナツ化現象する中、住民の困りごとに対処するため窓口となり、町の便利屋も兼ねているとのこと。



### ■大崎市太陽光発電・木質ボイラー複合利用施設

平成 27 年 3 月、大崎市田尻 加護坊温泉さくらの湯の敷地内に市太陽光発電・木質バイオマス複合利用施設が完成した。太陽光発電と木質バイオマスボイラーがパッケージになった施設は国内初とのこと。温泉の熱源となる木質バイオマスボイラーは出力 550kW。大崎地域の間伐材チップを燃料にしている。この事業の成果として、自伐林業者からの間伐材直接買取制度が 11 月からスタートすることになった。買取主体は、大崎森林組合員からとなるが、林地を所有していない人については、准組合員として登録すれば買取対象となる。

出力 30kW の太陽光パネルと蓄電池を活用して木質バイオマスボイラーを稼働させ、災害時にも温泉施設に電力と熱を供給できるようにしている。また、災害支援ボランティアのベースキャンプとして利用された実績もあり、災害への対応力強化も図っている。



### ■おおさき未来エネルギー株式会社～さくらソーラーパネル～

大崎市内の企業 5 社、タカツカホールディングス、千田清掃、古川土地、古川ガス、サステナジーが出資し、おおさき未来エネルギー(株)を設立し、田尻にある加護坊温泉さくらの湯隣接の大崎市市有地に大規模太陽光発電事業所「さくらソーラーパーク」を平成 26 年 10 月建設した。建設工事の燃料はバイオ燃料を使用しており、約 2.2 ヘクタールの面積に 4,880 枚の太陽光パネルを設置した。

年間予定発電量は 120 万 kWh を見込んでいる。発電した電力は東北電力に売電し、災害時は温泉施設に供給する。未来を担う子どもたちのために環境教育の場としても公開している。利益は地域のために還元したいとのこと。役員は無報酬とのこと。



### ■NPO法人蕪栗ぬまっこくらぶ

蕪栗沼は渡り鳥マガンの越冬地として、国際的に重要な湿地を保護するラムサール条約に登録されている。蕪栗ぬまっこくらぶは、蕪栗沼を保全する活動を行うため 1997 年に設立され、2000 年にNPO法人となった。現在約 200 名のサポーターと 8 名の理事、4 名の常勤職員によって運営されている。市民団体による環境保全という今最も新しい取り組みである。

活動は、環境保全・環境教育・生きものと農業との共生を3つの柱として、行政や地域住民との協働によって、蕪栗沼の豊かな自然環境を未来に伝えることを目標にしている。

近年は、蕪栗沼の陸地化の要因となっているヨシのペレット化によるバイオマス利用にも取り組んでいる。



## 「リフ環境まるごとフェア 2015」「石巻環境フェア 2015」に出展

### ■「リフ環境まるごとフェア 2015」

日時: 平成 27 年 10 月 11 日(日)9:00~16:00

会場: グランディ・21 円形広場

内容: グリーン購入の普及啓発パネル・商品の展示、  
小型家電リサイクル法の紹介



### ■「石巻環境フェア 2015」

日時: 平成 27 年 10 月 31 日(土)9:30~15:00

会場: 遊楽館アリーナ 石巻市北村

内容: グリーン購入の普及啓発パネル・商品の展示、  
カーボンフットプリントの紹介



## みやぎグリーン購入セミナー 宮城県保健環境センター大会議室

平成 28 年 2 月 9 日(火) 主催: 宮城県 共催: みやぎグリーン購入ネットワーク 42 名参加

### ■「イトーキの地域材を活用したCSVビジネス～環境活動と事業活動が一体となった取組事例～」 講師: 株式会社イトーキ 環境管理部 部長 岩井伸一氏(グリーン購入ネットワーク理事)



イトーキは創業 125 年を迎える。企業価値を高めるビジネス環境づくりのため、オフィス空間、公共施設、設備機器、オフィス建材、パーソナル空間などの分野に製品やサービスの提供をしている。環境方針の行動指針の中で、地球環境と人に配慮した製品・サービス及び空間デザインを提供することを謳っている。

環境マネジメントシステムには 2 組織あり、①「エコオフィス活動(組織)」という工場、物流センターを除くオフィス空間における省資源、省エネルギー及びリサイクル活動と、②「本来業務(組織)の環境活動」に分けられる。調達部では、取引先向け方針説明会を開催しており、自社で取り組んでいる重点 6 分野(安全・環境・品質・生産・原価・人材育成)の改善活動の導入について説明を行い、グループ会社はもとよりサプライヤーに対しても支援している。また、ISO14001 等の公的な認証取得のハードルが高いため、取引先の中小企業に対してイトーキ独自の基準に合格すればイトーキグリーン調達認証を付与する活動も推進している。

木材輸入自由化による国産材価格の下落、木材自給率の大幅減少、林業事業者の高齢化後継者不足、森林荒廃による水源の浄化力、木材生産供給力の低下等木材に関する諸問題を解決するため、日本の木材利用の事業化を図った。今までは木材を切り出し、製材加工を行った後、消費者の手に届くまでのサプライチェーンが途切れた状態であったが、木材利用の商品化、流通販売もつなげて行うことによって、地域特性を踏まえた付加価値の高いバリューチェーンの創出を目指している。実際の取組としては東日本大震災の東北復興支援活動として、被災地の木材を商品化し、売上の 2%を被災地に寄附する活動等を行っている。



### ■「エコフィードの取組みとSVOコージェネレーション発電機の導入」

講師: みやぎ生活協同組合 リサイクルセンター長 一條智昭氏



2014 年リサイクルセンターで食品残渣をコンポスト方式(堆肥化)からエコフィード方式(液状飼料化)へ変更改装し、同時にBDFボイラーを導入した。2015 年 3 月、一般社団法人日本有機資源協会主催「第 2 回食品産業もったいない大賞」でリサイクルセンターのエコフィード化が「食料産業局長賞」を受賞した。

これまで、食品残渣は堆肥化していたが、野菜・果物クズの含水率を 60~65%にするため、電気乾燥機を使用。しかし、乾燥機の老朽化と電気使用量がリサイクルセンター全体のおよそ 70%を占めていることが大きな課題であったこともあり、コスト削減や3R社会へ貢献するためエコフィード方式を取り入れた。2015 年 9 月SVOコージェネレーション発電機を導入した。(SVO→ストレートベジタブルオイルの略) SVOは、植物由来の廃食油から不純物を除去しただけの植物性油で、BDFより環境負荷は軽い。ヤンマー製発電機を導入し、コンパクトで高効率発電、エンジン排熱の回収を達成したコージェネレーションシステムを確立した。この発電機の導入により、リサイクルセンターで使用する電気は全て賅えるようになった。